

広報

第 93 号

2018年9月

平成30年

のむら

発行人 区長 萬浪三郎
編集 広報委員会
事務局 TEL.0795-23-4639
世帯数 2,836世帯
人口 7,256人
(9月1日現在)



トライやるウィークを終えて

浦川陽叶

トライやるウィークを終えて、病院には医師や看護師、薬剤師以外にもたくさん職業があることがわかりました。特に臨床工学部は名前すら聞いたこともなく、そんな職があるんだと正直おどろきました。また、リハビリテーション部には歩くことや起き上がることなどの体の動作に関するものだけでなく、発音するトレーニングをするところや手先をつかう細かい作業をするところがあることも、全く知りませんでした。それ以外にも、「よくテレビで見たことがあるけど、そんなこともしているなんて・・・」という職業が多々あり、その様々な職業の人たちがいて、病院が成り立っているということが学べました。この体験を将来につなげるのはもちろん、日常生活でも少しは活かせるようにしていきたいです。

小牧令奈

初めはすごく不安でした。大人と初めて仕事をするとのこと、さらに小さい子とたくさんかわるとのこと、うまくできるだろうか」とずっと思っていました。でも大人の方は、私たち中学生にも分

てがいつぱいで大変でした。でも保育士さんは大切な仕事です。本当に良い経験が出来ました。感謝したいです。

徳岡 玄

普段、僕はあまり料理をしません。なので、弁当づくりの最初らへんは、細かい作業が多く、苦戦しました。ですが、指導者のやさしい指導のおかげで、しっかり料理を作ることができました。今週したこと、一番楽しかったのは、ごはんを盛りつけること、おかずをあげたりためたりすることでした。後、トライやるウィークで学ばせていただいたのは、工夫する大切さです。かまどやさんは、日本が捨てる食料を減らすべく、自分たちの店だけでも食料を捨てる量を少なくするために、注文がきてから作るなどの工夫をしていることがわかりました。

僕はこれから一人の人にも役に立つために、たくさん工夫をしていきたいと思えます。

中山智美

一週間のトライやるウィークを終えて、とてもやりがいのある一週間でした。園児たちはあった瞬間から話しかけてくれて、初日からもう「ともみ先生」と呼んでくれました。二日目はもう名前を覚えることができ、楽しく南中へ行きました。お別れ会の準備をたくさんして、最終日にとっても喜んでもらえたので、うれしかったです。

かりやすく説明してくださり、分らないところは一緒にやってくださいました。大人の方の優しさというのが感じられました。ですが、やっぱり社会に出て働くことの厳しさ、大変さも思い知らされました。

この一週間は中学校の行事としてはなく、一人の社会人として、しっかりと自分の仕事をやりとおすことができたのではないかと思います。また、働くことはやりがいのあることだということも学ぶことができました。

今回の活動は、自分自身の将来のことを決める良いバネになってくれたと思います。将来の夢について、もう一度よく考えていこうと思つことができました。

世倉佑介

トライやるウィークを終えて一番印象に残っているのは、四日目の救助訓練です。救助訓練では、最初にランニングと筋力トレーニングをします。その二つは普段の六分の二程度しかしてないのに、服も重くて、マラソンよりしんどかったです。

その後の自力登攀(はんど水平通過は、ロープをつかんでもすぐに滑って、前に進みませんでした。消防の人たちは、簡単に登ったり、楽々できていて、すごかったです。けど、これくらいのができなないと、救える命も救えないぞ、言われて、人を助けるってすごいんだなと思いました。また、他の活動では、毎日車両点検をしていて、故障していたり、ライトが切

たです。

あと、人生初とも言えるような絵本の読み聞かせをして、とても難しかったです。けれど園児たちがしっかりと聞いてくれたので、少し安心しました。

あと、久しぶりに外で遊んで、子供のパワーはすごいと思いました。「鬼ごっこしよう」とか「リレーしよう」とか「すごろく遊んでほしい」とかとても振り回されました。とても楽しかったです。

橋本 仁

僕はこの一週間、トライやるウィークに真剣に取り組むことができました。初日からとてもハードな内容でした。そこで仕事のしんどさに気がつくことができました。

最初の二、三日は運搬やゴミの撤去が多かったけど、四、五日目はグリーンフィールドの池の掃除、イスを作ったりしました。僕の思っていた仕事とは違いますが多かったです。仕事の中でお客さんに「ありがと」と言ってもらえたことがとてもうれしかったです。

この一週間は、人生の中でも良い経験になりました。

長谷川侑那

トライやるウィークを終えて、働くことの厳しさや楽しさを学ぶことができました。この五日間は充実していて、あつという間に過ぎていきました。また、人と関わるコミュニケーションの大切さも感じる事ができました。

れていたりしたらいけないと教わりました。

瀧井結仁

トライやるウィークを一週間してみて思ったことは、仕事をしてお金をかせぐのはすごくないへんだと思いました。

ぼくはイエローハットに行かせてもらいました。イエローハットではピットで作業をすることが多かったのですが、自分にとってとても貴重な体験ができたと思います。ほかにもし体験や品出しなど、店内での作業も体験しました。

イエローハットの人に、この一週間でとても多くのことを教えてもらいました。なので、もしぼくが将来車関係の仕事をしたい時は、この一週間で教えてもらったことを活かして仕事をしたいと思っています。

田中佑奈

このトライやるウィークで、たくさんのことを学ぶことができました。私の将来の夢は看護師だったので、病院に行きました。

いろんな見学や体験や話を聞いたりして、本当にいろんなことを知り、いろんなことを学ぶことができました。病院のくわしいことが分かったので、将来に生かせたら、この五日間が本当に貴重な時間だったと思います。毎日がびっくりで、本当に良かったです。

さまざまな体験をする中で、働くということは責任があり、それを果たした時に大きな喜びや楽しさがあるのだと思いました。毎日働いてくれてるお父さんやお母さんに、「感謝」の気持ちを伝えたいと、自分がトライやるウィークで経験したからこそ思います。

そしてトライやるウィークで地域で学んだことを、自分の将来へとつなげていきたいと思っています。そして普段の学校生活の中でも、人との関わり方や自分から行動することを意識して過ごしていきたいです。大切な五日間になりました。

藤井一憲

僕は、この五日間で多くのことを学びました。まず、働くことの楽しさや大変さです。お店のレジ打ちをすることで、お客さんと会話したりして笑顔になつても楽しかったです。またお客さんから「頑張っているね」だったり、「ご苦労さん」といった声をかけてもらつて、すごくやりがいがありました。

しかし、時にはすごく地味な作業もあつて、例えば、お店の仕切りを八時間程かけて全て洗いました。その時に僕は、ちみつとじんとどいなと思つたことがあります。しかし、こういふことをすることで、お店が成り立っているんだなと思つて、すごく大切なことをしているんだと感じました。またやりきった後の達成感は格別で、とても嬉しかったです。

このように働くということは、しんどいことも経験しながら、そこから価値を見出して、成長していくことだと思えます。

とくに一番記憶に残っているのが、最終日の看護研修です。実際に患者さんのお世話をしたり話を聞いたり、たくさん勉強になりました。看護師の人って、こんなことをするんだと分かったり、どんなふんいきで仕事をしているのか、患者さんどんな感じで接し、ケアやお世話をするのかをこの目で見て、改めて看護師になりたいと思いました。ナース服を着て、将来この服を自分のものにして！もう一回着られるようにしたい！そう思いました。そのためにしっかりと勉強して、人に優しくして、看護師としてふさわしい人になりたいなあと思いました。

谷口乃愛

最初は仲良くなれるか不安でしたが、「お姉ちゃん」と呼んでくれて、自然と仲良くなる事が出来ました。

初日は五歳児のうめ組でした。みんな元気いっぱい、私も元気をもらえました。二日目はセロから一歳児のたんぼ組でした。泣いてしまつてもいれば「遊ぼう」といってくる子もいました。すぐくいやされた一日でした。

ゆり組は二歳児で、たんぼ組と二歳差です。ですが、話もしっかりするし、先生の話もしっかり聞いていて、すごいなと思いました。すみれ組の子はすくなく抱きついてくれました。人見知りする子もいなくて、みんな仲良かったです。さくら組は、おもちゃもゆすり合っていて、優しい子がたくさんいる教室でした。

たくさん経験が出来ました。一歳違つとすることが全然違つので、毎日初め

した。このトライやるウィークで見つけたこと、気付いたことを、これからの生活に活かしていきたいと思えます。本当に充実した五日間でした。

宮崎咲帆

トライやる初日はむずかしい事ばかりで大変だったけど、加東さんや、いっしょにトライやるの活動をした友達のおかげで、とても楽しく、たくさん学べた五日間になりました。私はこの五日間で、働く人の気持ちやたいへんさを知ることができて、ほめられた時のうれしさや楽しさを感じる事ができました。改めて働く人はすごいなと感じました。

私達が活動したことはほんの少しの時間だったと思いますが、とても体力もつかうので、すごくつかれました。でもその後につくつてくださるまかないを食べると、すごく体が休まりました。とくに土曜日は一番お客さんがこられて、いそがしくて、けっこう遅くにご飯を食べたので、とてもおいしかったです。

KU 弥介の方々には本当にお世話になつて、たくさん感謝しています。それに私達が失敗してもやさしく接してくださいましたし、手伝つてももらいました。このトライやるウィークを終えて、私は感謝の気持ちをたくさん持つて、その気持ちを相手に伝えることが大切だなと思いました。

いきいきサロン



七月十四日午後、第七十六回ふれあいいきいきサロンが開かれました。十三時半開会、司会は藤原久司さんです。萬浪区長あいさつに続き、町内在住三名の市会議員が紹介されました。最初は保健講話です。保健師の西村さんから健康に関するお話と簡単な運動を教えてくださいました。「難しいわ」という声もありましたが、皆さん楽しそうにやっておられました。本日のメインは踊りです。はなみずきの会による舞踊、「望郷新相馬」と「あやめ踊り」、フラエクサ・マハロの会によるフラダンス、「パリーシエル」「涙そうそう」と「大丈夫」、いずれも二部に分かれての演舞です。両団体とも、六区から来ていただきました。途中、参加者全員で「上を向いて歩こう」「青い山脈」などを合唱しました。最後はカラオケ。時間の都合で、二人の方が唱われました。そして長井副区長の閉会あいさつでお開きとなりました。参加者は五十二名でした。

まちづくり協議会会長 田中副区長
大変暑い中、多数の方にお集まりいただきました。女性の会、民生委員、まちづくり推進協議会の委員の皆さんの協力の下、一致団結して、無事終了することができました。ご協力いただいたはなみずきの会、フラエクサ・マハロの会の皆さん、会場を盛り上げていただいて、ありがとうございました。

西脇しばざくら通り謝恩夏まつり

西脇しばざくら通り商店会二回

七月二十五日（水）、西脇しばざくら通り謝恩夏まつりは、多くの方のご協力（野村町役員、西脇南中学校、ボランティア）を得て、野村町特別協力のもと無事終了いたしました事、しばざくら通り商店会一同、心より感謝いたしております。特に今年は、連日気温三十五度を超える猛暑の中、祭り当日は最高気温三十七度での開催となりました。午前十時から例年のテールやイスの運び出しに加え、今年は、盆踊りグループの強い要望によるやぐらの組み立て（昨年は無かったのですが）、熱中症対策のテント設置、霧のいけうち様のご好意による「霧プラス冷房ユニット」の設置等を行いました。夏まつりのイベントは、しばざくら幼稚園児のダンスに始まり、EJジム西脇、放課後子ども教室と子どものダンスが続きました。その後、大人のよさこいグループ、フラのグループが出演し、最後は来場者

全員が参加できる盆踊りの総踊りで締めいただきました。十日程前から、イベントといえればよさこいばかりでしたが、非常に多くの人の参加で最後を盛り上げていただきました。当商店会の行っている福引、焼きそば、ビール、ラムネもすべて完売致しました。開催中にも野村町役員の方々に、会場内に設置したゴミ箱のゴミ袋の回収交換、周辺の清掃をしていただきました結果、翌朝には旬菜館のスタッフの方から「今年は例年より非常にきれいでした」と言っていたいただきました。例年、私たちが気をつけて清掃しているつもりでしたが、それでもやはりごみが残っていて、市場、旬菜館や飲食業の方々に迷惑をかけていました。午前十時の設営から深夜十二時の撤収完了まで、猛暑の中、非常にハードな一日ではありましたが、多くの人の援助により大盛況のまま無事終了することができました。野村町役員をはじめ多くの方々のご協力、ご支援有難うございました。

谷本知事（西脇出身の石川県知事）日本スカウトジャンボリー参加の西脇二団を訪問

四年に一度、日本全国のスカウトが集うジャンボリーが石川県珠洲市で開催され（八月四日～十日）、西脇二団から八名のスカウトが参加しました。谷本知事は西脇市南本町のご出身で、西脇第三団のスカウトとして活躍された大先輩であり、我々のテントサイトに来られ、激励の言葉をいただきました。谷本知事より元気をいただき、六泊七日のキャンプを通じ、スカウトの友情を育み、多くの体験を通して自己成長できました。谷本知事、大変お忙しいところありがとうございました。なお、当ジャンボリーに参加したスカウトは次の八名です。

- 宇仁菅直（高三）、岡本拓末（高三）、清川陽向（高一）、岡本遥輝（中二）、藤井貴一（中一）、藤永智善（中一）、藤原 暖（中一）、村岡啓啓（中一）

スカウト募集中

ボーイスカウト西脇第2団

ビーバー隊：小学1年～小学2年生までの少年少女
カブ隊：小学3年～小学5年生までの少年少女
ボーイ隊：小学6年～中学3年生までの少年少女

ぜひ一度ご連絡ください。
お問い合わせ先 丸山富佐代 22-6401
宮田 22-4364

おうちの方へ
ボーイスカウトは、集団活動を通じてチームワークやリーダーシップを身につけます。
活動は、野外活動やゲームなど、大自然の中で行います。その中で仲間との付き合い方や集団での役割、小さな社会のルールを体験します。ボーイスカウト活動では、現在社会に不足している大切なものをたくさん学ぶことができます。

まちづくり講座



野村町公民館で、まちづくり講座が開かれました。講師は合同会社人・まち・住まい研究所の代表・浅見雅之氏です。三回にわたって開かれますが、七月四日の第一回と八月八日の第二回について、掲載します。

◇第一回◇ 人口減少社会

日本の人口は四十年後、今の六割になると予測されている。これは日本の歴史上初めての事である。人口が減るから税収が減り、市の職員数も減ってくる。しかし地区、自治会の数は変わらない。だから行政が今まで通りのサービスを提供するのが難しくなり、従来の経験や知識では対応できない事態が起きてくる。

住民の参画と協働
従来は行政が主体的に事業を進めてきたが、これからは住民の意見を聞き、ともに考えながら進めていくことになる。いくつかの事業については地域が主体的にやっていくことになるだろう。

それでは行政が自分たちの仕事を地域に丸投げするだけではないか、という批判もある。しかし本来、住民が行政に託してきたものを返却してもらっただけだ、と考えたらよい。

新しい地縁社会（コミュニティ）
事業を地域に託された時、その地域のコミュニティが重要になってくる。野村もそうだが、西脇の場合は地域の結束が強いからやりやすい。しかし都市近郊の新興住宅地や都心のタワーマンションなど、自治会が成り立た

っていないところでは非常に難しい。だからといって、全員一致・強制参加といった古い形のコミュニティを復活させても意味がない。新しい形のコミュニティが必要だ。

感想
参加者は三十四名と市の担当者が四名。「野村町は好きですか」という質問に五択のカードで答える場面があるなど、工夫されたお話でした。なお、講師の浅見氏は埼玉出身で神戸在住。奥様は香寺の方で、義父が西脇工業の先生ということで、播磨地方には親近感がある、と話しておられました。

◇第二回◇ まちづくりとは

地域の困りごとを自分たちの長期的な取り組みで解決することである。といっても、橋を架ける、道を作るといのは行政の仕事であって、地域にできることではない。一人暮らしのお年寄りをどうするか、といった身近なことが課題になる。

野村の人口の推移
五歳刻みの人口分布の推移を見ると、野村は他の地区とは違った形、通常とは異なる二つのピークが見られる。西が丘を抜いた分ですと、普通の形になる。西が丘だけを取り出せば、小さい子供とその親の世代の人口が飛び抜けて多く、これが先ほどの二つのピークを作っているということがわかる。

野村の高齢化率
全国の高齢化率は二十七パーセント、西脇市は三十パーセント、野村は二十三パーセントだから、あまり高くない。また、出生数も減っていない。しかし、安心はできない。この十年間で、高齢者世帯（全員が六十五歳以上）、高齢者の単身世帯が確実に増えている。

二十～二十五歳の谷間
人口分布で二十～二十五歳のところが落ち込んでいる。これは大学進学や就職で家を離れるため、都市部を除

く全国共通の特徴だ。課題はどこにあるか
若者が出て行く、高齢者が増える、だからだめなんだ、という思い込みはいけない。若者が都会を目指すのは仕方ない。しかし、彼らが三十～四十代になった時、帰ってこれる地域でないといけない。高齢者が元気で活動できる、活躍できる場がある地域でないといけない。

合意形成の方法
話し合いで決めているというが、本当にそうなんだろう。町内会長や一部の有力な人たちの意見がそのまま通ったり、反対意見が出ないまま、結論が押しつけられていることはないだろうか。説得ではなく、フラットな人間関係の中で、相手の意見をきちんと聞きながら、共感・納得できるようにプロセスをきちんと踏む必要がある。その手間ひまを惜しんではいけない。

コミュニケーション能力とは
人前で上手に話すことだと思っている人が多いが、それは違う。話す能力ではなく聞く能力、人にあいさつができ、人の話に上手になづくことができるかどうかが大切だ。

実際にやってみようワークショップ
「この週末、月へ行くとして、持って行く物」というテーマで、できるだけ多くの物を挙げます。五つのグループに分かれて競争しました。この場合のポイントは「そんな物、持って行かれへんやろ」などという先入観を捨て、とにかく自由にアイデアを出すことです。

感想
最後に行われたワークショップの後、「この場は何をいっても大丈夫、という確信が持てて、人は初めて自由に意見が言えるようになる」という指摘が印象に残りました。参加者は三十四名と市の担当者一名でした。

野村町の笑顔

いきいきサロン・しばざくら夏まつり
緑風台納涼祭・公園清掃一区
その他



しばざくら夏まつり

いきいきサロン



本部席



片山市長さん

中原会長さん



緑風台納涼祭



石田裕之さんコンサート

西脇北高ボランティア部



公園清掃一区



ボーイスカウト



人権講演会



町友会神社清掃



地藏盆



播田さん姉妹ハンドベル



まちかどミミーティング



七月十九日(木)夜、野村地区まちかどミミーティングが「みらいえ」で開かれました。

参加者は五十四名、うち野村町からは二十八名、他は市の職員で、熱心な討論が行われました。

***西脇病院について**
日本経済新聞の病院実力調査で、西脇病院が近畿地方ナンバーワンの評価を受けた。

本題に入り、第二次総合計画と新庁舎・市民交流施設について、市の担当者より説明がありました。

***新庁舎について**
問：浸水被害が予想されるような場所に、なぜわざわざ新庁舎を作るのか。
答：土地全体を五十センチかさ上げする。また、河川改修工事の結果、以前に比べて浸水の心配は軽減されている。問：この場所、十年に一度の大雨に対応できるのか。
答：それに対応できるとはいえないが、万一の場合には、「ここみらいえ」に市役所機能を移転させることを考えている。

***市民交流施設について**
問：市民会館に替わる多目的ホールについて。計画段階では、千席ないと採算を取るのが難しい、と聞いていた。それが六百席になったのはなぜか。
答：採算のためには千席が必要、というのはその通り。しかし西脇市の人口規模で、それだけの集客が可能かどうかもある。当初のプランは五百席だったが、予想されるイベントの規模を考慮し、今の市民会館と同じ六百席に落ち着いた。
問：新庁舎には医師会も入ることだが、それがホールの席数を縮小した原因ではないのか。
答：それは関係ない。市役所内に医師会の会館が置かれる、というのは全国でも珍しく、市民の健康増進に体となって取り組める、という利点がある。
問：座席が移動式で、他のイベントにも対応できる、とのことだが、それではかんじんの音楽ホールとしての音響効果が損なわれるのではないか。
答：音響については、専門業者に設計を依頼し、できる限りのものを目指している。
問：市民交流施設の部屋・スタジオを借りる場合、使用料があるのか。
答：基本的に有料だ。

問：他に候補地はなかったのか。
答：第一築工跡も候補に上っていたが、地主が切交渉に応じてくれなかった。カナート跡に決まったのは、すぐそばに神姫バスの営業所があり、交通アクセス、特に黒田庄方面から来る場合の利便性が高いからだ。

***野村町公民館について**
問：野村町の公民館は築四十五年を過ぎ、老朽化が進んでいる。市では、各地区につづつコミュニティセンターを設置すると聞いている。野村町の場合、公民館をコミュニティセンターと位置づけ、その改修・新築に市の援助を受けることはできないか。
答：この「みらいえ」は、重春・野村地区のコミュニティセンターとしても作られている。重春地区との共用はいえ、一つある以上、それ以上のことはできない。

***市民交流施設について**
問：市民会館に替わる多目的ホールについて。計画段階では、千席ないと採算を取るのが難しい、と聞いていた。それが六百席になったのはなぜか。
答：採算のためには千席が必要、というのはその通り。しかし西脇市の人口規模で、それだけの集客が可能かどうかもある。当初のプランは五百席だったが、予想されるイベントの規模を考慮し、今の市民会館と同じ六百席に落ち着いた。

***新庁舎について**
問：浸水被害が予想されるような場所に、なぜわざわざ新庁舎を作るのか。
答：土地全体を五十センチかさ上げする。また、河川改修工事の結果、以前に比べて浸水の心配は軽減されている。問：この場所、十年に一度の大雨に対応できるのか。
答：それに対応できるとはいえないが、万一の場合には、「ここみらいえ」に市役所機能を移転させることを考えている。

人権講演会

八月十九日(日)午後二時、「みらいえ」で人権講演会が開かれました。従来は夜開かれていたものを昼間に移した初めての試みです。参加者は約二三〇名、家族連れの姿が目につきました。

①人権作文朗読

大切な家族
重春小学校四年 坪井智加さん



いつも家族に助けられています。私が体調を崩して寝込んだ時には、お母さんやお姉ちゃんが心配してくれて、それで元気になったような気がします。算数の宿題が難しかった時、おばあちゃんに聞いた時、「わからへんわ」とい

障がいとは
西脇南中学校三年 山根桃華さん



私の兄は知的障がいがあり、特別支援学校に通っています。障がい者という言葉だけで特別扱いしてしまいがちですが、生活を送る上で多少不便なだけで、それ以外はみんなと同じです。兄は、人とコミュニケーションを取るの

わが町のお地藏さん



早いもので地藏尊の補修工事完成から三年がたち、今年も八月十八日(土)に一区のお地藏さんをきれいに祀りし、地藏盆を迎えることができました。

以前はこ野村町一区におきましても、地藏盆の恒例行事として子供たちを中心に樽(やぐら)を立てて盆祭りが盛大に執り行われてきました。ところが時代とともに少子高齢化が進み、子どもの数が減少し、ここ数十年地藏盆ができませんでした。しかし町内のボランティアのみならずのご協力のもと、建物の老朽化による補修工事も終え、地藏盆を迎えることができるようになりました。子どもの数が減少している中で地藏盆、決して盛大にはいきませんがみんなで案を出し合い、今回は子供が喜ぶお菓子や飲み物、手作りのおでんやおにぎりそして焼き鳥にオードルやフルーツを振る舞い、地藏盆を盛り上げることができました。

当日の読経では多くの方々に参加していただき、地藏盆にも総勢四十名以上の方が参加されました。他班からもたくさんのお供えをいただき、来年はぜひ踊りを取り入れてほしいとのうれしい要望もいただきました。またこのたびボランティアで協力して下さった皆様には心より感謝申し上げます。

忘れられようとしている地藏盆、一人でも多くの方に参加していただければこれからも続けてまいりたいと思っています。今度も一区内会合はもとより、たくさんの方々のご参加ご協力をよろしくお願いいたします。

一区有志の会代表 藤原成児
幹事 宮田豊通

②ハートフルコンサート

演奏者はシンガーソングライター石田裕之さん。一九八〇年生まれで、音楽活動を通じ、震災支援や防災、環境保護など幅広い分野で活動されています。

オリジナル曲で、障がい者福祉施設のイメージソングです。
♪ひまわりの約束
避難所でのコンサートでは、リクエストを受けることにしています。熊本を訪れた時、リクエストでこの曲を唱いました。最後にはみんなの大合唱になりました。
♪上を向いて歩こう
東北の避難所を訪れた時、みんなで肩を組んで唱いました。終わった後、あるおばあさんにいわれました。「この何ヶ月かの間に、有名な歌手やタレントが何人も来ました。でも、これだけ私達に唱わせてくれたのは、今回が初めてです。みんなと一緒に大きな声で歌えて、心が軽くなりました」

自分がやりたいことをやるのがボランティアではない、被災者が何を求めているかを知ることが大切なのだ、ということも教えていただきました。
♪花は咲く(広報注・説明不要)
♪たんぼぼとレンコン
熊本地震の被災地を訪れた時に作ったオリジナル曲です。「たんぼぼ」は地元の障がい者施設の名前で、この時、ボランティア受け入れセンターの役割を果たしました。「レンコン」は地元中学校のボランティア部の名前、きれいな花を泥の中で支える役割を果たしたいという思いで名付けられました。

石巻を訪れた際、地元の要請を受けて作ったオリジナル曲です。被災者から寄せられたメッセージを歌詞に取り入れられました。(広報注・やっぺすは「一緒にやりましょう」という意味の石巻方言)
昨年、西脇市内の他の地区で人権作文を発表されたのを聞いて感動し、その後、一緒に東北の被災地を訪れている播田(はりた)さん姉妹のハンドベルとの共演です。背景に流れるのは、石巻の皆さんのビデオです。
♪ひとつしかない地球
一人一人の命の重さを唱った曲です。
♪糸
アンコールで唱った中島みゆきの曲です。

③報告 西脇北高校ボランティア部

「小さな一歩が大きな未来へ」をスローガンに活動しています。
東北の被災地訪問は今回が八回目でした。旧・大川小学校跡地で、伝承の会の方から当時の話を聞きました。宮城県立水産高校では、高橋さんという方の講演を聴きました。同じ高校生とは思えないほど、しっかりした話をされていました。
石巻では語り部の方から話を聞きました。「がんばろう石巻」という大きな看板が、震災復興のシンボルになっているそうです。
南三陸町のさとうみファームというところで、材木の整理や草むきなどの環境整備を行いました。
倉敷市真備町にも行きました。暑くてしんどく、不安でしたが、時間がすぎました。誰かの役に立てていると思うと、心が癒やされました。「現地にまでは行けない」という方は、私達が街頭で募金活動をしている時に声をかけてください。励みになります。
感想
「シンガーソングライター」というものには、従来、いささかの抵抗がありました。しかし石田さんの歌は、アタの強さも押しつけがましさも無い、一陣の風が吹き抜けるようなさわやかなものでした。

平成30年度 野村町 行事カレンダー *注*その後変更されることがあります。念のためご確認ください。

2018年 10月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	貯筋クラブ 10時	カラオケ 13時半 詩吟 19時半	貯筋クラブ 10時	パソコン 19時	貯筋クラブ 10時	野村町秋祭り
7	8	9	10	11	12	13
野村町秋祭り	体育の日	カラオケ 13時半	貯筋クラブ 10時	パソコン 19時	貯筋クラブ10時 野々華の会19時半	毛筆 9時半 気功 10時半
14	15	16	17	18	19	20
	貯筋クラブ 10時	カラオケ 13時半 詩吟 19時半	常任委員会 19時半 貯筋クラブ10時	パソコン 19時	貯筋クラブ 10時 人権定例研修 19時半	茶道 9時半
21	22	23	24	25	26	27
木工 9時~16時	貯筋クラブ 10時		区議会 19時半 貯筋クラブ10時	パソコン 19時	貯筋クラブ 10時	いきいきサロン 13時半 毛筆 9時半
28	29	30	31			
	貯筋クラブ 10時		貯筋クラブ 10時			

2018年 11月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				パソコン 19時	貯筋クラブ 10時	文化祭
4	5	6	7	8	9	10
文化祭	貯筋クラブ 10時	カラオケ 13時半 詩吟 19時半	貯筋クラブ 10時	パソコン 19時	貯筋クラブ10時 野々華の会19時半	花いっぱい運動 毛筆 9時半 気功10時半
11	12	13	14	15	16	17
防災訓練	貯筋クラブ 10時	カラオケ 13時半	貯筋クラブ 10時	パソコン 19時	貯筋クラブ 10時	茶道 9時半
18	19	20	21	22	23	24
公園清掃3区 木工9時~16時	貯筋クラブ 10時	カラオケ 13時半 詩吟 19時半	常任委員会 19時半 貯筋クラブ10時	パソコン 19時	勤労感謝の日	イルミネーション飾り付け 毛筆 9時半 気功10時半
25	26	27	28	29	30	
	貯筋クラブ 10時		合同委員会 19時半 貯筋クラブ10時	パソコン 19時	貯筋クラブ 10時	

2018年 12月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
						茶道 9時半
2	3	4	5	6	7	8
祇園祭 木工9時~16時	貯筋クラブ 10時	カラオケ 13時半 詩吟 19時半	常任委員会 19時半 貯筋クラブ10時	パソコン 19時	貯筋クラブ10時 野々華の会19時半	毛筆 9時半 気功 10時半
9	10	11	12	13	14	15
公民館大掃除・ 防災訓練・ 区議会	貯筋クラブ 10時	カラオケ 13時半	貯筋クラブ 10時	パソコン 19時	貯筋クラブ10時 野々華の会19時半	茶道 9時半
16	17	18	19	20	21	22
木工 9時~16時	貯筋クラブ 10時	カラオケ 13時半 詩吟 19時半	貯筋クラブ 10時	パソコン 19時	人権定例研修 19時半 貯筋クラブ10時	毛筆 9時半 気功 10時半
23	24	25	26	27	28	29
	振替休日		貯筋クラブ 10時			
30	31				仕事納め	
	年末年始祭灯 (7区・1区)					

インタビュー
人権教育協議会に聞く



藤原信子さん

八月二十一日(火)、野村町公民館で、人権教育協議会の会長・藤原信子さんにお話をうかがいました。以下、人権教育協議会は「人教」と略します。

【人教の組織】
全国人教の下に兵庫県・東播磨地区・西脇市の人教があり、その下に野村地区の人教があります。

推進委員と推進員

まず、推進委員と推進員は違います。推進委員は野村では二名で、町から推薦された方を市で任命します。推進員は各区から三名ずつ出していたのですが、二人が市の推進員、もう一人が地区の推進員です。

市の推進員は、市が開く年五回の課題別研修会や指導者養成講座などで学習します。

各区の推進員は区別学習会を担当します。各区のまちづくりに関わりが大きいので、各区の三役の方に兼任していただきたいところです。

会長の決め方と任期

町から推薦されました。他にもいろいろな役を受けているので断ったのですが、社会的に意義深いことなので、強く説得された結果、受けることにしました。

他の地区の任期は一年ですが、野村地区は二年です。再任は妨げません。以前は十年単位でやられた方もありました。

活動内容

五月に総会、六月に市外研修があります。今年には篠山の障害者施設と丹波杜氏資料館に行きました。八月に強調月間講演会、九月十一月に区別学習会をやっています。推進員を対象とした定例研修会が年七回あります。

東播磨地区・県の人教大会には、代表が参加しています。全国大会は、市人教で検討して参加しています。

印象に残る研修・講演

最近ではLGBT(性的少数者差別)問題を扱った講演を聞く機会が増えました。苦しんでいる方がおられることについて、みんなの理解が必要だと思えます。きちんと対応し、環境を整備していくためにも学習が必要です。(広報注:Lはレズビアン、Gはゲイ、Bはバイセクシュアル、Tはトランスジェンダーです)

やってみてよかったこと

市全体でのさまざまな取り組みが分かり、勉強になります。また、いろんな人と知り合い、交流ができるので、人間関係が豊かになりました。

大変なこと

講演会、定例研修など、会を開くたびに神経を使います。こんなテーマでやりたいといえば、講師は市の方で紹介してもらえます。しかし、できるだけ多くの方に興味を持ってもらい、共感していただくことに心を砕いています。

八月の人権講演会(9ページ参照)

従来は夜にやっていたものを、今回初めて昼間にやってみました。内容がコンサートだったので、家族で参加していただきたいという思いで結果を願いました。その結果、子どもさんの姿も多く見られました。

昼間にやることの是非については、アンケートの結果を確かめてみたいと思っています。野村地区の結果

がどうだったか、他の地区も注目しているようです。

昼間にやってみて

夜にやるよりも気を遣いました。暑い時期なので、熱中症対策としてお茶を出したり、塩飴を出したりしました。託児所と救護所も用意しました。委員の方には、午前中から準備していただく必要があります。

また複合施設なので、他の活動との兼ね合いもあり、椅子の確保が大変でした。

問題点は

野村は人口が多い割には、こういう集まりへの参加率が低いので、気になります。

以前は役員になられた方が代表として参加されるだけで、しかも役がすむと来なくなるという傾向が見られました。それを何とか乗り越えたいと思っています。

市人教で聞いた比延地区の実践報告では、各種団体の責任者を常任委員に加えておられるとのこと。それが各種会合の参加率アップにつながっているそうです。

そこで野村地区でも、各種団体の責任者に加わっていただくことにしました。その結果、少しずつ参加率がアップしています。

みなさんに伝えたいこと

役員の皆さんには、とても熱心に取り組んでいただき、ありがとうございます。会長職は普通、推進員を経験してから就任される方が多いようですが、私はいきなり会長を頼まれました。推進委員さんが大変協力的に動いていただけですので、本当に助かっています。

今まで、野村町でいろいろな役をやらせていただきました。その時にできた人脈が、今、人教の活動に役立っていると思います。いろんなことをお願いするにしても、顔なじみですから、頼みやすいですね。だから、皆さんに大変感謝しています。今後共世話になります。どうぞよろしくお申し込み申し上げます。

町内会訪問 第一回 一区

新しい企画です。従来は、各町内会長さんに就任あいさつを一筆書いていただく、ということが終わっていました。そこをもう少し掘り下げることができたら、と思います。

第一回は一区です。七月二十九日(日)、台風十二号が通り過ぎた直後、公民館でお話をうかがいました。なお、もう一人の副会長・時本敏則さんは都合がつかず、欠席されました。



会長 丸山貴弘さん



副会長 原田陽子さん

●就任に当たつての心境

会長・丸山貴弘さん(以下、丸と略します)・・・まだ現役のサラリーマンなので、ついついばいの状態です。

副会長・原田陽子さん(以下、原と略します)・・・本来は父が受けることになっていました。しかし高齢なので、私が代わりに引き受けることになりました。何をやるにも初めてのことはばかりで、緊張と不安でいっぱいです。仕事をしながらなので、町内の事で考えなければいけない事があつても、どうしても仕事優先になってしまいます。

●三役の決め方

丸・・・一区は九班あります。それを三班ずつのグループに分け、そこから輪番で三役を出しています。ですから六年に一度まわってきます。

●やってみての感想

丸・・・大変です。ストレスがたまりまます。会議が多く、休みが少なくなるのがつらいです。行ける限りは行っていますが、平日の昼間の会議は無理です。

原・・・大変だとは聞いていましたが、想像以上です。会議と行事が多いのでびっくりしました。配り物もたくさんあります。とにかく一年やってみないと分かりません。二年目になったら様子が分かってくるので、余裕ができるかも知れません。

丸・・・いわれたことはきちんとできますが、人前が出る、人に命令するのが嫌いな性格なので・・・だから何かと原田さんに頼っています。

原・・・初めての顔合わせの時、丸山さんが「会長をやります」といつて下さったので、ありがたかったです。会長さんが率先して動いてくださるので、助かりますし、頼りがいがあります。「いい会長さんでよかったですね」と母も喜んでます。

●よかつたこと

丸・・・市の会議などに行くと、同級生によく出会います。懐かしいし、お互いがんばっているなと思うと、励みになります。

原・・・今はいわれたことをやっているだけです。「ご苦労さん」とか、「いいねい」やってくれてありがとう」といわれると、よかつたなと思います。

●現状と問題点

丸・・・高齢者が増えていることです。先日の野村公園清掃でも、多くの方に来ていただいたのですが、坂を登って来ないといけないし、作業中に倒れる方があつても困るしと心配しました。そこで、一区は免除してもらえませんが、とお願いしたのですが、却下されました。原・・・新しく家を建てるにも空いている土地がないので、昔からいる方ばかりになっていきます。八十歳以上の方は役員から除くという所もあると聞いています。役員を好きでやってくれる方は少ないですから、年齢制限を設けるなど、体制を考え直す時期に来ているような気がします。

丸・・・三人の役員はうまくやれているのか、とよく聞かれますが、今のところ大丈夫です。もう一人の副会長・時本さんは夜の仕事で、ご高齢でもあり、なるべく負担をかけないようにしています。土日の行事、たとえば花いっぱい運動、野村公園清掃などは協力いただいています。

●自慢の景色

丸・・・これが案外難しいんです。駅も公民館も二区にあります。一区から見るといい景色でも、たとえば野村公園は三区ですから・・・。原・・・野村橋から見た景色でしょうか。そこから北、谷川線の鉄橋の方角は一区です。通るたび、季節ごとに、それぞれきれいだと思えます。また河川改修で川幅を広げていたたいたので、先日の大雨でも水があふれることはありませんでした。以前のままなら、我が家は浸水していたと思います。

●皆さんへのお願い

丸・・・いつもいつもお願いばかりしていますが・・・とにかくがんばります。困つた時には助けて下さい。

原・・・私達は役目上、たまたま上に立っているだけです。私達より経験豊富で詳しくご存じの方がたくさんおられますので、聞きに行った時には教えて下さい。



編集後記

広報副委員長

前原 義継

今号は、トライやるウィークを体験した中学生の感想文などを掲載しています。普段大人でも出来ない病院関係のお手伝い、消防での色々な人を助けるための訓練など、辛かつた姿が目には浮かびます。私も飲食関係の仕事をしていましたので、KU弥介のような大きな店での接客、料理運びは苦労したでしょうね。

いきいきサロンも、七十六回も続いているとは、凄いですね。私もいつかは仲間入りすると思いますが、その時まで継続よろしく。

今回の表紙になつているのが、しばざくら通り謝恩まつりに参加してくれた子ども達です。幼稚園児、小学生、みんな楽しく踊ってくれました。暑い日だったので、ビールがよく売れました。

人権講演会にも多くの参加をいただきました。小中学生の作文に感動しました。石田さんの女性のような美声で、心にひびく歌に聞き惚れました。石田さんは歌を通してボランティア活動をされています。私達も素直にボランティア活動に参加したいですね。